

# 藻場で脱炭素 酒田港に期待

## ブルーインフラ実証実験

温暖化防止に向けて、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を吸収する藻場の形成などに適した港湾構造物「ブルーインフラ」の効果や改善点を確かめる実証実験が、酒田市の酒田港で行われている。四方を海に囲まれた日本にとって、沿岸域の藻場の「脱炭素」のポテンシャルは大きく、期待が高まっている。

実証実験は、国土交通省 務所が参加を募り、五つの東北地方整備局酒田港湾事 企業・団体を選定。実験場



ブルーインフラ実証実験で使うブロック(手前)はクレーンでつり上げられ、港内に沈められた18日、酒田市の酒田港

## 水深浅く、届きやすい日光

所として、酒田港の北港船だまりを提供した。水深が比較的浅く、藻場の生育に必要な日光が海底に届きやすいため、この実験に適した場所だという。

選定された5者は5月から順次、藻場形成のためそれぞれ工夫を凝らした構造物を海底に設置。18日には2団体が設置し、5者全ての実験が始まった。

日本消波根固ブロック協会は、この日、防波堤工事などの際、海中の基盤部に使う「根固ブロック」の改良版を設置。栄養分となる鉄が溶け出すプレートや、海藻が付きやすい凹凸部を設けた重さ500kgの3つのブロックだ。これらは1基ずつクレーンにつり上げられ、実験場所に沈められていった。

宮城大食産業学群の北辻政文教授が代表を務める



資源循環コンソーシアムが実験に使う構造物と担当の北辻政文・宮城大教授

「資源循環コンソーシアム」もこの日、箱形の構造物を4基設置した。

北辻教授によると、箱の中には藻場の栄養分となる鉄(鉄鋼スラグ)と窒素などの栄養塩が入っていて、ゆっくりと溶け出す。栄養塩は設置後も年1回補充し、継続的な生育を促すという。

また、セメントは製造時に1トあたり約770kgのCO<sub>2</sub>が発生するため、セメントの使用量は極力抑えて箱を造ったという。

岩手県金石市で実施した別の実験では、ひと冬で1基から長さ4m、総重量200kgの昆布が育ったという。北辻教授はブルーインフラについて、「豊かな海を守り、温暖化防止にもつながる。ウィンウィンの取り組みだ」と語った。(清水康志)

## 「ラーメン県そば王国」 県が商標登録を申請

消費量日本一のラーメンや「そば街道」を観光資源として売り出そうと、県は「ラーメン県そば王国」の商標登録を特許庁に申請した。登録後はSNSなどで浸透させ、県外や海外からの観光客の増加を狙う。

吉村美栄子知事が18日の定例会見で16日に申請したことを明らかにし、「山形県の強みとして(ラ



自分好みのラーメンを探せるサイト。消費量日本一の山形市が開発した11同市提供



尾花沢市や大にはそばの名店「そば街道」がた、山形市は2019年11月初めて開かれた当地ラーメン総は、「酒田のラーメン」優勝した。吉村知事は「ラーメンが全国1位にならずみとなつた。